

vol.49-12 (通算 561号)

2020年3月号

The logo for 'Yadokari' (やどかり) is written in a large, stylized, red font. The characters are bold and rounded, with a slight shadow effect.2020年3月15日発行
(毎月1回15日発行)1987年12月19日第三種郵便物認可
発行人 公益社団法人やどかりの里
代表者 土橋 敏孝

〒337-0043 さいたま市見沼区中川562

TEL 048-686-0494

FAX 048-747-7030

URL <https://www.yadokarinosato.org/>

定価 50円 (含会費)

地域づくりとやどかりの里の価値

2019年度やどかりの里総括会議開催

2019年度の総括会議が2月22日に開催された。参加者は約60人。1部「やどかりの里の1年を振り返る」、2部「やどかりの里の50年」、そして3部「公開座談会これからを展望する」(メンバー、家族、職員6人の話し合い)であった。

今年設立50年を迎えたやどかりの里の原点と活動に関わってきた人たちの思いに触れ、それらを引き継ぐ私たち1人1人が何ができるかを考える時間となった。

第2部「やどかりの里の50年」では、1970年にその産声をあげたやどかりの里が、人としての尊厳を大切に歩み出したこと、病状や障害に着目するのではなく、1人1人のありのままを受け入れることを大事にしてきたことが語られた。そして、やどかりの里は仲間同士の支え合いを促進するグループ活動を大切に、その場は職員の成長の場でもあった。支援する人、される人として出会うのではなく、互いに学び合う共育ちの理念もやどかりの里の活動の原点であった。また、公開座談会で、仲間づくりは家族会活動にも通底していることが語られた。やどかりの里で出会った家族たちも、互いの支え合いがあり、経験を共有する中で家族自身も回復してきているのである。

総括会議では、50年の大きな節目にあたり、これからのやどかりの里を展望することも語られた。本紙前号でも報告した「未来を拓くつなぐ・つくるプロジェクト」が始動してい

ることが報告された。「見沼の文化とSDGs^{注)}を意識した共同創造のソーシャルファームづくり」をテーマに、地域で孤立しがちな人たちにとっての新たな居場所、働く場、よろず相談できるソーシャルファームづくりが構想されている。やどかりの里の活動を地域の一部として捉え、地域に資する活動をつなぐを大切に実現しようと考えている。プロジェクトは始まったばかりだが、他領域の人たちとの協議も行われている。

私たちの生きる社会は、格差が広がり、孤立して生きる人も多く、支援が必要でも声あげられない人たちがいる。谷間に置かれた人たちにやどかりの里の経験、精神障害のある人たちやその家族の経験を生かすことはできないだろうかと考えている。

やどかりの里は設立当初から、メンバーの願いやニーズに向き合い、制度がなくても必要な資源を創り出してきた。やどかりの里の理念と地域づくりが結びついたこのプロジェクトは、これからのやどかりの里の進む方向を示すものといえる。

ありのままの自分でできることをやっていきたいと公開座談会で語られた。誰か1人が頑張るのではなく、1人1人が主体的に行動し、力を発揮することで、やどかりの里の価値の普遍化を図っていけたらと考えている。

注) 2015年9月の国連サミットで採択された2030年までに持続可能でよりよい世界を目指す国際目標